

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないで、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷りは五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

今年は二十八年ぶりの日本医学会総会をはじめとして各学会が名古屋に集中した。日本医史学会のプログラムともいべき医学史学会の医学史展示も地域の特性を發揮して立派な出来だったと思う。

今回の医史学会は一般講演六十六題という多数の応募があり、近年稀にみる賑やかな学会になりそうである。しかし時間に関りがあるから、プログラムの編成に当たられた委員の方はご苦労が多かったことであろう。どうか演者の諸氏は指示通りに時間を守り、その中で活発な討議をして盛りたてて頂きたい。

そしてさらに完成した論文を原著として本誌に投稿してくださることを切望している。優秀な原著には年に一編(見送られることもありうるが)学術奨励賞が与えられることに昨年の総会で決まった。

なお、すでに本誌の論文として見かけたような題名で学会発表を希望しておられる方もありますが、それも採用し、しめきりに相当遅れて応募しても断らないという今回は極めてなごやかな対応がされた。来年の学会には応募される方でこれらのことをもっと厳しく考えるべきだろう。

本誌の表紙は六月十日という本学会の初日と同じ日付に開催されていた江戸時代の行事の絵図で飾ることが出来た。尾張医学の心意気を汲み取ることができているのではないだろうか。(大村敏郎)